

Q：運動会の練習で入退場を厳しくいう風習は、どこからくるのでしょうか？

A：1888（明治 21）年、石川県の各学校は、文部大臣森 有礼の学校視察の歓迎準備のために、子どもたちに兵式体操を練習させ、同年の春に金沢市、石川郡、河北郡の一市二郡の小学校児童の連合運動会を開きました。そして、10 月の視察の際、大臣の臨場する運動会を第 2 回とし、秋季の連合運動会を開きました。場所は、金沢市の北の海岸である普正寺の浜でした。そこで、大臣に見せたのが、隊列運動と重鈴運動、徒手体操、木銃と背のうを担った運動と行進で、それは本物の軍人に負けないようなきびきびとした動作で、大臣が大変ほめ、喜んだそうです。森 有礼大臣が奨励した、こういう運動会の形式は、長く日本の小学校に生き続けました。森 有礼大臣が学校教育の中に兵式体操を奨励し、軍隊的な形式を導入した理由は、すすんで行動しようという国民性をつくりあげるのに、軍隊のやり方を利用するのが一番良いと考えたからでしょう。言いかえれば、日本国民に従順、友情、威儀の徳を身につけさせるとともに、軍隊の忠誠という精神の中に統一国家としての日本のイメージをいただいていたのではないのでしょうか。

（前橋 明）

子どもの健康福祉研究所